

＜相談支援部会：平成26年度事業計画 の評価＞**1-1. 患者必携「地域の療養情」第4版の配布と普及活動を行う。**

計 画：患者必携「地域の療養情」第4版を作成と配布を行い、配布後の調査を実施し冊子の更新や修正を含め、今後の対策を検討する。

実 績：昨年3月に完成した第4版を、沖縄県と共同でがん診療を専門に行っている医療機関、福祉保健所、市町村などに配布した。第4版に関するアンケート調査を行い、結果を改訂作業に活用した。また、部会委員がラジオ番組へ出演しハンドブックの広報を行った。

評 価： 10 点

次年度：次年度版の発行に伴い、終了。

1-2. 患者必携 「地域の療養情報 おきなわがんサポートハンドブック」2015年版を作成する

計画：沖縄県の要請に立ち、患者必携「地域の療養情報おきなわがんサポートハンドブック 2015年版」作成に向けた作業部会を立ち上げ、掲載内容の確認と修正等の作業協力を行った。完成は、3月31日を予定している。

実績：患者必携「地域の療養情報おきなわがんサポートハンドブック 2015年版」作成に向けた作業部会を立ち上げ、掲載内容の確認と修正を行った。完成は、3月31日を予定している。

評価： 10 点

次年度：第4版に習い、関係機関への配布と普及活動を行う。また「患者必携 おきなわがんサポートハンドブック 2015年版」評価アンケートを実施し改定に役立てる。

2. チラシ配布やラジオ番組の参加等、相談支援センターに関する広報活動を行う。

計画：普及啓発部会と連携し、部会委員がラジオ番組へ出演し相談支援センターの利用やハンドブックの活用などの広報活動を行う。また、各種イベント時に、相談支援センターのチラシを配布する。

実績：普及啓発部会と連携し部会委員がラジオ番組へ出演し相談支援センターの利用やハンドブックの活用などの広報活動を行った。また、各種イベント時に相談支援センターのチラシの配布と地元新聞2社への無料広告掲載を行った。

評価： 10 点

次年度：継続して広報活動を行い周知に努める。

3. ピアサポーター等と連携し、小児がんサバイバーのネットワークづくりを支援する。

計 画：働く世代や小児がん患者への支援の充実を図るために、関連施設と連携し、小児がんサバイバーのネットワークづくりを支援する。

実 績：地域統括支援センター主催のがんピアサロンとがんサロン研修会に部会委員がファシリテーターまたはアドバイザーとして参加した。また、県内の患者サロン交流会を開催予定。

評 価： 8 点

次年度：県内がんサロン同士の互いの交流・連携を深めるよう継続する。

4. 患者家族満足度調査実施し、分析結果の公開と、相談支援に活用する。

計 画：2014年9月までに予備調査（認知度）を終了する。2015年3月までに100人を対象とした本調査を実施する。

実 績：調査概要について再検討し、予備調査にあたる患者・家族の認知度調査シートを作成した。先行して那覇市立病院健診センターで人間ドック対象者を対象とした相談支援センター認知度調査を参考に、満足度調査を実施予定。

評 価： 7 点

次年度：相談支援センター患者家族満足度調査（本調査）を実施する。

5. 相談内容の分析を行い、部会計画の改定等へ活用する。

計 画：2015年3月までに支援病院で相談シートを導入し、拠点病院・支援病院で定期的に相談内容の比較・検討ができる。

実 績：県内の3拠点病院1支援病院が参加し、部会へ定期報告を行っている。

評 価： 6 点

次年度：県下のがん相談支援について検討できるよう相談支援センターのPDCAサイクルについて検討をはじめめる。

6. がん相談員を対象とした研修会（地域の療養情報の配布方法を含む）を企画・開催する。

計 画：2015年3月までに各拠点病院主催で年3回実施する。

実 績：

① 琉球大学医学部附属病院 5月16日（金）

がん相談員実務者研修会「がんと仕事～就労支援を考える～」

② 那覇市立病院主催 9月28日（日）

がん相談員実務者研修会「がん医療におけるピアサポート」

③ 県立中部病院主催 10月30日（木）

がん相談員実務者研修会「在宅医療の現状と課題」

評 価： 10 点

次年度：引き続き、継続して研修会を行う。

7. 沖縄県がん相談支援センター相談マニュアル（小児がん対応用）を作成する。

計 画：症例数の少ない小児がんに関する相談に対して、どの相談支援センターでも対応できるように、相談マニュアルを作成し、説明会を行う

実 績：小児がんに関する相談マニュアルを作成した。ワーキングメンバーにて関連施設への配布と説明会を実施。マニュアル活用後のアンケート調査を実施予定である。

評 価： 10 点

次年度：作成、配布完了に伴い終了。

8. 相談支援部会の活動実績を学会等で報告する。

計 画：部会委員が部会活動に関する活動を学会等で報告し、最新の情報を収集と、他県との情報交換を行う。

実 績：医療マネジメント学会、第 32 回公衆衛生学会都道府県情報提供・相談支援部会へ参加し部会および協議会にて情報共有した。

評 価： 10 点

次年度：部会委員で発表が行えるよう、継続して取り組む。

9. セカンドオピニオンの普及と活用を推進する。

計 画：医師へセカンドオピニオンに関するアンケートを実施し、結果を公表する。

実 績：アンケートを実施し調査結果を集約中。

評 価： 7 点

次年度：分析結果を沖縄県がん診療連携協議会ホームページ等で公開予定。

10. 県内のがん診療を行っている病院のセカンドオピニオンリストを作成する。

計 画：セカンドオピニオンリストを更新し、協議会ホームページへ掲載する。

実 績：県内のがん診療医療機関へセカンドオピニオン体制に関する調査を行い、実施医療機関リストを7月に協議会ホームページにて公開した。

評 価： 10 点

次年度：次年度も継続して行う。

11. がん患者の就労支援に関し、産業保健関連職種との連携を推進する。

計 画：就労支援に関する事例に関して、社会保険労務士等との研修会や意見交換会を1回以上開催する。

実 績：県内の拠点病院相談員と社会保険労務士協会との意見交換を行った。

評 価： 2 点

次年度：社会保険労務士による就労相談を開始し、就労支援について検討する。

平成 26 年度 第 3 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

日 時：平成 26 年 10 月 23 日（木）14：00～16：00

場 所：琉球大学医学部附属病院 3 階がんセンター

出席者：11 名 樋口美智子（那覇市立病院）、高良清健（友愛会ケアプランセンター）、
神谷八重子（沖縄県立中部病院）、仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、望月祥子（ハートライフ病院）、
古堅敦子（県立宮古病院）、宮良久美江（沖縄県立八重山病院）、上原弘美（沖縄県地域統括相談支援
センター）、石郷岡美穂、増田昌人、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）

今回参加者：1 名 上玉利由美子（国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供研究部 地
域相談支援フォーラム事務局）、兼城研（沖縄県保健医療部保健医療政策課）

欠席者：2 名 石嶺彩香（南部医療センター・こども医療センター）、親川淳（沖縄病院）

陪席者：1 名 井上亜紀（琉球大学医学部附属病院）、平良（沖縄県立八重山病院）

会議に先立ち、国立がん研究センターがん対策情報センターの上玉利さん、沖縄県沖縄県保健医療部
保健医療政策課の兼城さんの自己紹介があった。

【報告事項】

1. 平成 26 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨（資料 1）

協議に先立ち、資料 1 に基づき、平成 26 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨
が承認された。

2. がん患者ゆんたく会について（7～9 月）

資料 2-1, 2-2, 2-3 に基づき、7～9 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」につ
いて、紙面報告があった。

3. がん相談件数（7～9 月）

資料 3-1, 3-2, 3-3, 3-4 に基づき、樋口部会長より、各拠点病院のがん相談件数（7～9 月）について、
紙面報告があった。

4. 宮古でのフォーラムについて

資料 4 に基づき、當銘委員より、がん患者会連合会による宮古島でのフォーラムの報告があった。非
常に関心が高くて、70 名くらいの参加があり盛況であった。離島に関しての支援がほしいとの声や、フ
ォーラムがあることで表に出られなかった人が外に出られるようになったという話を聞き、良い傾向で
ある。本島でも、明日、嘉手納でフォーラムを行う予定で、FM コザでアピールしながら進めており、さ
らに名護、那覇市、久米島でも開催を検討中であることが周知された。

がん条例についても、みんなに理解してもらえるよう、患者会連合会のスタッフ一同で勉強して、ア
ピールしていきたいとの提言があった。

5. 各部会事業の進捗報告について

(1) 【施策1 関連】地域の療養情報第5版について（委託は無しの件）

まず、増田委員より、今年度は県から相談支援部会への委託はないとの報告があった。大久保委員より、これまでは、部会が委託として請け負って改訂編集印刷作業までを行っていたが、今年度は、基本的に県の方で必要な情報の更新や取りまとめ印刷などを担っていただき、部会は協力といった感じで更新される部分の編集協力という形で関わっていくことになることが報告された。

県保健医療政策課の兼城さんより、今年度は印刷製本費用しか確保できないので、12月より編集作業をワーキンググループにお願いして、患者会の進捗情報・専門病院やセカンドオピニオンのリスト等々、新しい情報収集や編集及び原稿の修正などご協力いただき、1月末から～2月いっぱい、文字・レイアウト・写真の校正（訂正）を行い、3月初旬に原稿を仕上げ、印刷業者と色味の調整を済ませて→印刷→納品との流れで進めたいとの要望があり、部会での了承を得た。表記についても、第〇版ではなく、〇〇年度版としていくことで了承された。

望月委員より、色・写真・構成は印刷業者任せになるのか？との質問があったが、兼城さんより、第4版はかなり考えて作りこんでおり、今年度版をがらりと変えることは難しいので、色・写真・構成などのご意見をいただき、文言は部会にて修正編集をお願いしたいとの提案があった。

また、印刷は他の課からの発注になり入札や随契などの方法があるが、著作権や著作権の問題もあり、業者との打ち合わせや今後の会議には、場所をがんセンターとして、ワーキングの皆さんと兼城さんとで協議検討していきたいとの考えを示した。

(2) 【施策2】がん相談支援センターの広報について（新聞広告・ラジオ特番）

資料5-1に基づき、大久保委員より、3拠点病院・3援病院のがん相談支援センターに関する広告を、月1程度、部会事務局より新聞無料広告欄への投稿（週刊ホームプラザ、週刊レキオ）継続中であるとの報告があった（掲載の可否は、各新聞社の判断による）。

資料5-2に基づき、大久保委員より、がん検診啓発ラジオ放送企画について、ROKラジオ沖縄「チャットステーションL」に、相談員のお立場で高江洲アヤ子さんに出演いただき、医師のお立場で普及啓発部会の副会長でもある那覇市立病院の松野医師に出演いただいたとの報告があった。松野医師からは、リスナーさんからの「がんはうつる・うつらない」「がんは遺伝する・遺伝しない」といった素朴な疑問に驚愕したとの感想があったことも報告された。また、「がんサポートハンドブック」の広報として、望月委員にラジオ取材を受けていただいたが、放送を聞いた院外の方がハートライフ病院に受け取りに来てくれたとの嬉しい報告もあった。

(3) 【施策3】7/27がんサロン研修会について

資料6に基づき、上原委員より、7/27にがんサロン研修会を行ったとの報告があった。午前中は広く緩和ケアについての講演会（講師は南部病院 小橋川初美氏）、午後はピアサポートに関する研修会（講師はNPO法人がんサポートかごしま理事長 三好綾氏）で、がんサロンの運営方法、模擬サロンでのロールプレイでがんサロンのファシリテーターの在りようを学んでいただいた。午前中25名、午後23名の参加があり、ロールプレイも初めはぎこちなかったが、2回目3回目となるにつれてうまく回せるようになっていたとの報告がなされた。

(4) 【施策3】 8/3 患者会/患者サロン勉強会について

資料7に基づき、上原委員より、患者会やがんサロンを運営している方に患者会活動の運営や組織について学んでいただくために開催するとの報告があった。午前中は天野慎介氏（一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン）に患者会の役割等の実践について、午後は、前半に埴岡健一氏（東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット客員教授）による組織に関するレクチャー・ミッション・規約・事業計画について、後半は新垣西香氏（コミュニティカフェよなくる）によるや資金調達・広報行政との連携についての講義であったとの報告がなされた。

増田委員より、八重山の患者会の方には、県より渡航費の補助があったり、面白いミッションがあったり、医療者の方のオブザーバー参加があったりと新しい試みであったことや、参加した患者会の方々がボードに書いたミッションや計画を、まとめて部会報告してはどうかとの意見があった。

(5) 【施策6】 がん相談員実務者研修について（9/28 那覇市立病院・10/30 中部病院）

資料8-1に基づき、樋口部会長より、9月28日に那覇市立病院にて、第2回がん相談員実務者研修会を行ったことが報告された。「がん医療におけるピアサポート」をテーマに第1部は、那覇がん患者ゆんたく会5周年記念講演となる「がん患者サロンの現状と課題」について、第2部は、兵庫医科大学の大松重宏先生による「がん医療におけるピアサポート」の講演及びグループワークを開催し、27名の参加があった。講師である兵庫医科大学の大松先生からは、患者サロンのネットワークの構築を進めてほしいとの要望があり、患者とピアサロンの違いへの理解、相談支援員としての役割など、今後の課題も明確になったとの報告があった。

資料8-2に基づき、神谷副部会長より、10月30日に県立中部病院にて、「在宅医療の現状と課題」をテーマに第3回がん相談員実務者研修会を行う予定であるとの周知があった。中部病院で行っている終末期の在宅医療について、連携している訪問看護ステーションの下地節子所長をお招きし、中部病院MSWの喜舎場理恵さん、中部病院地域ケア科の田仲斉先生とそれぞれのお立場からお話いただく企画となっている。

(6) 【施策7】 沖縄県がん相談支援マニュアル（小児がん対応用 第1版）について

資料9に基づき、石郷岡副部会長より、進捗状況の報告があった。WGメンバーが分担して訪問した保健所での説明会の内容を一覧表にしているが、①臨床心理士などの専門スタッフがどういう仕事をしているのか、②本マニュアルを当事者（患児や保護者）に渡しているのか、などの質問があり、後々には患児や保護者向けの冊子も必要性を感じたとの報告があった。大久保委員より、「小児がん」をテーマとした臨床心理士・小児科医師・患者会・チャイルドライフスペシャリスト・MSWを招いての第4回相談員実務者研修会の開催について、各保健所や市町村の小児担当者などの参加可能なオープン参加型研修会の提案があり、琉大主催での開催として部会事務局で企画を練ることが了承された。

樋口部会長より、今までに配布した先での意見の集約や改訂作業、アンケート調査などについても、WGと部会との業務分担を検討するために、今年度下半期で1回はWGを開催し、WGのあり方や次年度も継続するかどうかなどを検討してほしいとの要望があった。

6. 専門部会のあり方について

資料10に基づき、増田委員より、がん政策部会の副会長として、7つの専門部会の所掌、枠組み、再編成について、部会のあり方について検討して頂きたいとの要望があった。がん政策部会では、国や県のがん計画をすべて7つの部会がカバーすることはないのではないか？との意見もあり、現在調整中であるとの報告もあった。本来は、がん計画については、県の仕事もしくはがん対策推進協議会の仕事かと思われるので、追々調整していくが、研修部会については各職能団体や、拠点病院でも研修を行ってきており、研修部会の初期の目標は達成しているのではないかと国のように、相談支援部会と普及啓発部会を合体させるのはどうか？その他の部会の再編成など、部会やメーリング会議などで検討していただきたいとのことであった。

7. 12/1 都道府県第4回情報提供・相談支援部会について

大久保委員より、今年度2回目、通算4回目の会議が国立がんセンターにて開催され、増田委員・大久保委員が参加するので、次回の部会での報告を予定しているとの周知があった。樋口部会長より、各県の部会の評価や研修体制についての協議になるのではないかとの情報提供があった。

8. その他

(1) 希少がんのデータベースについて

増田委員より、国立がんセンターで希少がんのデータベースができ、都道府県の拠点病院が希望すれば、そのデータベースを利用できるとの情報提供があったが、諸般の事情で琉大病院は申請していないとのこと（鹿児島県と2県）。希少がんに対する対応については、教育の背景や資格の拝啓なども国がんで検討中との報告があった。

(2) 部会の学会活動について

増田委員より、沖縄県全体の取り組みとして、相談支援部会でも学会への参加、発表、論文作成といった学会活動をしていただきたいとの要望があった。

(3) 宮古病院・がん患者サロンについて

古堅委員より、11月から毎月第一木曜日6時半～8時半まで、がん患者サロンを開催することになったとの報告があった。

(4) FMたまんでのラジオ放送について

高良委員より、すい臓がんの在宅療養の患者さんがFMたまんに出演されて大反響があったこと、八重瀬町のケアマネ研修会で南部病院の小橋川師長が講演をし、訪問看護など、がん患者さんを地域で見ていく動きが活発になってきたとの情報提供があった。

(5) 患者サロンのネットワークについて

上原委員より、琉大病院のゆんたく会と中部病院のゆんたく会とを合同で行い、サロンのネットワークを広げたいとの提案があった。

【協議事項】

1. 【施策6】がん相談員実務者研修について（第4回について）

【報告事項】5. 各部会事業の進捗報告について（6）【施策7】沖縄県がん相談支援マニュアル（小児がん対応用 第1版）について の議題として協議したので省略する。

2. 【施策 6】 地域相談支援フォーラム in 長崎について（実行委員の推薦等について）

大久保委員より、部会の皆さんにはメーリングでご確認いただいたが、今年度は、来年2月に長崎県で開催され、神谷副会長（中部病院）、古堅委員（宮古病院）に実行委員としてご参加いただくことになったとの報告があった。

国立がんセンターの上玉利さんより、地域相談支援フォーラムは、今年度までが地元開催のパイロット事業として開催され、長崎県内の国や県の拠点病院の方々主体で月1回集まり準備会議を進めて頂いている。10月29日に各県から1名招集しての実行委員会を行いプログラムや運営方法を決めていく予定で、今回は、テーマを「長崎らしさ」として、離島の問題で皆さんが困っておられるので、離島と過疎地の地域医療に関連して連携というよりは離島や過疎地との繋がりをテーマに、1月31日午後・2月1日午前にフォーラムが行われるが、第1日目に毎年行っている各県の情報交換会とディスカッションを行い、翌日に繋がるテーマも協議、第2日目にグループワークで事例検討をディスカッションし、経験の浅い方も持ち帰れるものがあるように作り上げたいとのことであるとの進捗報告があった。

平成26年度の地域相談支援フォーラムは神奈川県部会・長野県部会・長崎県部会の主催、公開セミナーは島根県主催である。平成27年度以降の地域相談支援フォーラムは、相談員対象で2枠、一般対象で1枠の企画を募集するが、平成27年度の相談員対象の企画は鹿児島県部会と大阪府部会が採択され12月か1月の開催予定、一般対象の企画は福岡県九州がんセンター（5月の博多ドンタクの頃）と三重県協議会が採択された。鹿児島県部会は、午前中に情報交換・3つの「きく」をテーマに講演会を行い午後はグループワーク（相談者のニーズを聞く・サロンでの問題の解決に向け協議）といった企画内容で採択されているので、沖縄県からも平成28年度からの企画に是非応募して頂きたいとの要望があった。鹿児島県協議会では、九州の開催が続くので採択されないことを想定し、協議会として独自で予算を確保することも検討中であったが採択されたという動きもあったこと、沖縄県の相談員が実行委員として企画運営に参加すれば、指定要件の研修としてカウントされることが情報提供された。

3. 【施策 9】 セカンドオピニオン・アンケートについて

資料11に基づき、大久保委員より、今年度の部会計画の中で実施することになっており、平成22年度に実施した調査と比較し、現状と普及啓発についての変化を比較し推進方策を検討するためにアンケートを行うことになったとの報告があった。アンケート内容は前回のものとほぼ同様で、対象は沖縄県内のがん診療を行っている病院に勤務するすべての医師（研修医を除く）とし、35施設に調査を依頼する予定であるが、部会員の方はご自分の施設の取りまとめをお願いしたいとの依頼に、部会の皆さんの了承を得ることができた。また、樋口部会長より、別紙で配布している那覇市立病院での認知度調査を行い、一般市民500名の調査において、約30%の方がセカンドオピニオンを知っているとの回答を得たとの報告があった。

4. 【施策 11】 産業保健関連領域との連携内容の検討・・・（資料 12）

資料12に基づき、大久保委員より、今年度の部会計画の中で実施予定であるが、がん患者さんの就労支援の向上をめざし、就労支援に関して社会保険労務士等との意見交換会や研修会の提案をしており、

昨年度作成した「事業者と働く人のための がん治療と仕事 その両立支援のポイント」冊子の周知や説明もかねての研修会として、県の兼城さんにも協力を要請している所だとの報告があった。

県保健医療部の兼城さんより、県の労働政策課の出張説明会に少し時間をもらって説明会をしたいとの打診をしたところよい感触を得ているので、今後、部会にも協力を依頼したいとの報告があった。冊子は県保健医療部に在庫があるので、問い合わせがあれば送付は可能とのことであった。

5. 現況調査の「相談支援」関連における実施状況について・・・(資料 13)

資料 13 に基づき、増田委員より、がん診療連携拠点病院の指定要件の現況調査の実施状況について、11 月の協議会で 3 拠点病院・3 支援病院の状況を報告する予定との周知があった。

6. 「がん患者宿泊支援制度」について・・・(別紙資料)

別紙資料に基づき、県保健医療部の兼城さんより、平成 26 年 7 月よりがん患者宿泊支援制度が始まり、各医療機関にパンフレットを配付中であるとの報告があった。支援制度は、県内ホテル組合のご厚意によるもので県からの費用は一切出ていないのであるが、今まで利用されたという実績がないため、ホテルの一覧表の記載がこれでいいのか、見せ方はどうかなど、部会での意見を得たいとの要望があった。PR の第一弾としてマスコミへの広報は終わったところであるが、継続の PR が出来ていないところも反省点である。

北部地区医師会の仲宗根さんより、北部地区医師会病院には届いておらず、そういったパンフレットなしに、1 件患者さんを連携している病院に紹介した。もし届いていれば有効活用が出来たこと、放射線治療という限定があり北部地区医師会病院でできない治療なので、その点はどうか？患者さんは宿泊が長びくならウイークリーマンションを利用しているとの意見があった。

八重山病院の宮良師長より、八重山病院には届いておらず、竹富町役場で見つけたのでそこから分けてもらったこと、本島へ行くときにはまだ治療法が決まっていないので放射治療のみと限定されていると使いにくいこと、料金についてはネットで自分で予約した方が安くなったこと、親戚でも兄弟までなら宿泊させてもらっているがほとんどなく、ホテルやウイークリーマンションを利用しており、八重山も渡航費補助を活用していると意見があった。

宮古病院の古堅師長より、宮古病院ではパンフレットが足りず印刷して配布しているので余分があればいただきたい、内容に関しては、金額の明記がなくその施設ごとや季節によっても金額が変わるので困っていること、宮古病院では化学療法で琉大病院に通院する際には他の渡航費補助がなんとか利用できていること、兄弟の嫁ぎ先への宿泊は一週間はいいが一ヶ月の長居はできないので、長びくならウイークリーマンションを利用していることなどの意見があった。渡航費補助についても、広報を行っているとのことであった。

當銘委員より、ホテルの宿泊についても、定額制になれば利用しやすいが、逆に金額が一定でなく季節によって高くなったりするのは患者も困るし、身内でも家族や兄弟くらいしか宿泊は出来ないこと、渡航費の援助にも限度があること、病院の予約の取り方によっては渡航費の援助が使えないことから、病院同士の予約の取り方や血液の検査結果の通知など、病院間の連携も強化してほしいとの意見があった。

増田委員より、患者さんや医療者を編集作業に参加していただいたか、ホテル組合のご厚意で行っている制度であることの文言をいれたか、ホテル組合のご厚意を称える文言が必要ではないか、一覧にあるホテルの割引額の定額制の表記、もっとわかりやすい記載で使い勝手のよい支援制度にすること、パンフレットの改訂が急務でないかとの意見があった。樋口部会長より、一つのアイデアとして受験生パックのような金額も一定でその目的に特化した制度にはならないかとの意見があり、県の方には、部会委員の皆さんの意見を集約して改訂や制度の見直しに役立ててほしい、部会としても広報を続けていくとの提案がなされた。

7. 次回、平成 26 年度第 4 回相談支援部会開催日について

第 1 候補日： 平成 27 年 2 月 19 日（木）

第 2 候補日： 平成 27 年 2 月 26 日（木）

8. その他